



神金公民館だより

第156号
2023年
3月1日

空気清浄機設置



公民館利用者の感染防止のため、空気清浄機を購入してもらい、1階ホールと2階和室に設置しましたので、利用時には活用してください。

これまでは、換気のため窓と出入り口扉を開けたまま利用していただくことになっていましたが、空気清浄機を利用することで窓と出入り口を閉めた状態での利用が可能となりました。

電源プラグをコンセントに接続し、清浄機上部のスイッチを押すことで作動します。



非接触体温測定器

公民館玄関に利用者の体温測定器と消毒用アルコールの自動噴霧器を購入してもらい設置しました。

どちらも非接触型なので、安心して使っていただけたと思います。

体温測定器は、体温が37度以上を測定した場合は、警告音が鳴ります。その場合は、入館を遠慮していただきたいと思います。

なお、測定器・噴霧器とも電池の消耗が早いので、利用が終わり退館するときに電源スイッチを切っていただければありがたいです。

自動消毒噴霧器

神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

今月は、「山 四」の後半部分のみの掲載となりました。

山 四（後半）

明治新政府は着々と内外ともに整い力をつけたが、徳川家に代わった天皇家を安泰にしなければ政府要人が己の地位保障ができないので、天皇家の基礎を拡大することに専念した。徳川家は八百万石を領有していたが、経済的破綻が幕府崩壊の原因要素であったことを考え、天皇家の財産を千五百万石から二千万石を目標に不動の態勢を整えようとした。京都時代の天皇家は僅か五万石であった。忠良なる政府役人は明治十八年宮内省に御料局を設け、民有地以外で収益の上がる土地を接収（横奪）することを考えた。明治二十年六月二十二日、宮内省御料局長名にて藤村県知事に通達があった。それには「百歩以上の官有地で条件良好なる土地を選び、場所・反別に略図を添えて差し出すべし」とあった。これに対し藤村知事は、富士・萩原・丹沢・相川の四地区を申請した処、直ちに採納になり、然も天皇家世襲の財産である世伝御料と決定した。甘言で民有地を取り上げて官地とし、それを天皇家の世襲財産にしてしまった。全く驚く外はない。県は、官地にはなったが入会権は厳然としてあることを認め乍ら、入会権者に何の話もなく第三者にやってしまったのである。この年、藤村知事は愛媛県に転任した。明治六年に県令として山梨に着任以来、官民有区分と地租改正により、甘い話で民有地を取り上げて地とし、又絶対である天皇家の世襲財産にしてしまったことに対して、道義的責任かちも良心の呵責にも耐えられず転出を願い出たものと思う。藤村紫郎はこの功により男爵になり華族に列せられた。

「一将功成って万骨枯る」という諺があるが、藤村紫郎は甘言にて民地を取り上げて官地とし、更に天皇家の財産にした功績により華族になった。山を生命線として生き、山を守ってきた住民は遂に山を取り上げられてしまった。この怨念は永久に忘れることはできないであろう。北富士では今でもこの紛争の延長が続き、新聞に北富士入会の記事のない日は少ない。

天皇家の財産になった以上、大きな声で山を返せなどと言うことはできなくなった。当時天皇家に対し悪口でも言えば直ちに不敬罪になり、刑罰に処せられたものである。

御料林になってから煩雑な規則と厳重な管理は入会住民の御料局へ対しての信頼感は絶無で、抵抗から反抗になり、放火・乱伐・乱採となり異しむ者も、諫める人も、止める人もなくなり、役人に見つかりさえしなければ取り得だという村ぐるみの暴力的反抗により、御料局と県に対して泣き寝入りはしないぞという意地を示した。